オーラルフレイル

2014 年に日本で提唱された概念であり、2019 年に、「老化にともなうさまざまな口腔の状態（歯数・口腔衛生・口腔機能など）の変化に、口腔健康への関心の低下や心身の予備能力低下も重なり、口腔の脆弱性が増加し、食べる機能障害へ陥り、さらにはフレイルに影響を与え、心身の機能低下にまでつながる一連の現象および過程」と定義された。現在も概念の検討が継続されている。

老年歯科医学用語辞典第３版より